

絶望が導く解答(ルカ 8:40-48)

誰しもが人生うまくいきたいと願って頑張っています。また、良いことを夢見て、希望を見てみな生きています。懸命に頑張っています。しかし、そのような願いが願い通りにならない、根本的にうまくいくことなどは不可能である、良いことなどはあり得ない、いくらやってもできないという人の絶望の真相がわからないと、根っこが死んでいる木の枝を整えて葉っぱをきれいにふきながら花を咲かせようとするのと同じことになります。結局、人生は空回りして迷路に入ってしまうだけのことになってしまいます。なので何かを願う前に、一生懸命、頑張る前に、人はどんな存在で人生というのはどれほど絶望的なのかに、まず気づかないといけないものなのです。今日の聖書を通してそのことを正しく教えられ、これからクリスチャンの私たちは、本当に勝利ある人生を迷うことなく進んでいきたいと願います。

1. 絶望しないとさまよい続ける。

まず第一に、そういう意味で人は絶望が何かわかっていないと、絶望しないと、その人の人生はさまよい続けるようになるしかありませんということをぜひ心に覚えましょう。

1) (22-25) ともにおられるのに…(教会、信者)条件、環境、状況にとらわれ

今日お読みしました聖書の箇所の中の 22 節から 25 節には、イエス様と一緒に弟子たちが船に乗っていた場面が出てきます。突風が吹いてきて危機的な状況になった時、弟子たちは震え上がり怖くなって、イエス様に「どうしたらいいのでしょうか」と騒いでいたわけです。そこでイエス様はその海を沈めて「信仰の薄いものたちよ」と叱っている場面です。なぜ教会なのに、教会に通っている信者なのに、弟子たちなのに、イエス様と一緒にいるのにこのようになってしまうのでしょうか。何かの問題にぶつかって危機的な状況がやってきた時、それにとらわれて溺れていくようになってしまいます。彼らはイエス様がともににおられるにもかかわらず、まだ絶望などがわかっていません。絶望が何かわかっていないので、イエス様が一緒ににおられるにもかかわらず、キリストとしてイエス様のことを信じて味わって、それを適用することができてないわけです。なので教会に通っている信者であっても、何かしら条件、環境、状況などにとらわれて、それに振り回されるようになってしまいます。なぜでしょうか。絶望が何かわかっていないと、その結果、キリストがキリストとして見えてこないで、そのキリストが Only になることがないので、結局は振り回されることになってしまいます。そのことが聖書には紹介されていて、それが信者のさまよいなのです。とても残念ではないでしょうか。今日礼拝を捧げている皆さんは、そのような残念な信者から抜け出して、Only キリスト、どのような条件、状況、環境であってもそれに振り回されることなく、「主は、生ける神の御子キリストです」と告白することができる、つまり、私たちの思いと考え、心を操っている悪霊が逃げ去るような信仰告白の主人公になることを祈りたいと思います。

2) (26-39) 奇跡と救いを見ても…肉の有益や計算を優先して

それから、26 節から 39 節には、ある町に入られたときに、悪霊に取り憑かれて人の手には負えないほど暴れている人がいました。あまりにもその暴れっぷりが激しいので、誰もコントロールすることができないほどの人だったのです。そこにイエス様が入られて、その人に向かって「お前の名前は何か」と聞かれたら「レギオンです」と。あまりにも多くの悪霊がいっぺんに入り込んでいたので、それは軍隊という意味なのです。「私の名前はレギオンです」と。それでイエス様がその人から悪霊を追い出し、悪霊たちが豚の群れの中に入って豚たちが走り出し、川に入って溺れて全部死んでしまうようになります。それでその人は正常に戻ってイエス様の膝元に座ることになりました。このお話を聞いた町の人々が、今まで悪霊に取り憑かれて大変な目に遭っていたたましいが救われて、彼らから見たときには今まであり得なかった奇跡が起きたのではないのでしょうか。すると「ハレルヤ、あなたはキリストです」と賛美を捧げるべきなのに、彼らはこのままイエス様がここにいらっしやると、悪霊に取り憑かれてやられている人が少なくなるので、これから豚の産業、牛、羊などはだめになるだろうと思って「イエス様、このままではうちの経済がダメージを受けるので、私たちの町から出てください」とお願いしたのです。奇跡を見たのにもかか

わらず、イエス様による救いのわざを目の当たりにしたにもかかわらず、絶望が何かわかっていないと、キリストがキリストとして見えてこないで肉的な利益を優先して、肉的な計算を優先してしまい、さまよう人生がずっと続くようになります。これが人のさまよいなのです。イエス様と一緒にいる弟子たちもさまようようになり、だから他の人は言うまでもないでしょう。イエス様の奇跡を目の当たりにしたにもかかわらずさまよい続けています。

3) (40-56)勝利を語っておられるのに…人の限界に閉じ込められて、あざ笑う

それから、40 節から 56 節を見ますと、会堂管理者ヤイロという人が、自分の娘が死にかけていたので、イエス様に自分の家に来ていただきたいと願いました。しかし、イエス様がそこに行く途中で娘さんが死んでしまったので、召し使いたちがやってきて言いました。「もうこれ以上、来てもらわなくてもいいですよ。もう死んだので」。イエス様は「いや、あの娘は死んだものではありません。いま眠っているのです」とおっしゃいました。誰がでしょうか。キリストであるイエス様がその口を開いて、死んだのではなくて眠っているよと勝利を宣言されました。にもかかわらず、それを聞いていた人々が、娘が死んだことをわかっているから、もうすでに死んでるのでイエス様の言葉に対してあざ笑ったと書いてあります。さまよっているわけです。キリストであるイエス様が死に対して、人には不可能な絶望に対して勝利を語っていらっしゃるにもかかわらず、自分の限界、自分の知識、自分の経験に閉じ込められて、結局、みことばをあざ笑うことになります。未信者はもちろんであって、教会に通って礼拝に参加している信者でもこういう残念なことがあるわけです。彼らみたいに目立つようにあざ笑うことはしないでしょうけれども、心から「まあ、うん、そんなもんか」と自分とは全く関係がないかのように、そういう残念なことがずっと続くようになります。なぜこのような反応になるのでしょうか。基本的に、一番根本的に人の絶望が何かわかっていない、本当の意味で絶望したことがないから、イエス様が目の前にいらっしゃるのに、奇跡を見せたのに、勝利を宣言されたのに、いのちのみことばを語っていらっしゃるのに、それに対してアーメンと受け入れることができないままさまよい続けることになってしまうということなのです。絶望という言葉は、あまり響きがよくないかもしれませんが。だからみな絶望したくない、絶望を避けたいのです。でも絶望からでないとスタートしません。絶望しない限り、いくら頭を回転して、いくら頑張って努力をしたとしても、結果がどういう形に現れようが、その人はさまよっている人生なのです。答えは見当たりません。答えを握って勝利の人生を歩くということは期待できません。だから、できるだけ絶望という言葉はどこかに投げ出して、避けて通ろうと思わないで、絶望からスタートしない限りは、自分の人生のさまよいは終わらないんだ。教会に通っていても葛藤だらけで生ぬるい信仰がずっと続くようになるし、何かしらあるたびに影響を受けてつまずいて倒れてしまう、そういう弱々しい信者になるしかないんだ。喜びが溢れて、ほかの人が見ても不思議だなと思う証人ではなくて、いつも不満だらけで、心の中でもやや曇っているような信者としてずっと続くようになります。今日の聖書を通して、なぜ自分の信仰はそのようなものなのかに対して答えを得て絶望から始めましょう。特に神様の恵みによって状況的に絶望的な状況を経験しなくても、レムナントの場合はそれを悟るようになることが一番最高なのですが、場合によってはレムナントのときから教会に通っているので、絶望とは状況的にあまりにも遠く離れているので、言葉を聞いても自分のことではないかのように思ってしまう可能性があるのです。それも恵みによって全部ひっくり返るように。レムナントであれ、大人であれ、今まで自分の心の中でいやだ、不満だ、なんでだろうと思っていることが絶望に変わり、それが本当の答えに結びつく祝福のきっかけになることを祈りたいと思います。なので今までこの聖書を通して確認しましたように、人は絶望が何か分からないと、絶望しないと、さまよいの人生が終わりません。

2. 絶望は真の答えキリストへ案内して、さまよいを終わらせる。

言葉を変えますと、第二です。人の絶望というのは、絶望で終わりではなくて、真の答えであるキリストへと案内してくれる道具であり、その結果、さまよいの人生を終わらせることになります。

だから簡単に申し上げると、絶望してください。絶望してください。何かどこかにまだ可能性があるかのように暴れようとししないで絶望してください。

1) 人の絶望からスタート

勝利の人生は、答えある人生は絶望からスタートします。今日の聖書見ても、そのことがこのように表現されています。

(40-42) 会堂管理者ヤイロ-死にかけていたので

40 節から 42 節を見ますと、会堂管理者ヤイロの娘が死にかけていたので。それからもう死んだ。人間にとって死にかけるといことは絶望的な状況なのです。それを表しているのです。この人はキリストを求めて、キリストがその人の人生の答えになるわけです。

(43-48) 長血の女-12 年間誰にも治してもらえなかった

そして、43 節から 48 節を見ますと、長血を患っていた女のことが紹介されています。その人は 12 年の間、誰にも治してもらえなかったという絶望的な状況を経験してるわけです。彼女はキリストが自分の人生の唯一の答えとして受け入れることができ、新しい人生をスタートすることができました。もちろん会堂管理者は娘が死にかけていたので、とにかくなんかすごい方がいらっしゃるから来ていただいて治してもらいたいという気持ちだったのでしょうか。もちろんその気持ちはあるでしょうけれども、単にそれだけではありません。12 年間、誰にも治してもらえなかった長血を患っていた女の人が、イエス様の服にさわったときに、とにかくこの病気を治したいなあという気持ちだけだったのでしょうか。後でイエス様がおっしゃいました。「あなたの信仰があなたを救った」と。それから、彼女がさわったことがバレたときに、なぜさわったのか、そのわけを話したと書いてあります。詳細には書かれていませんが、娘が死にかけている会堂管理者、12 年間、誰にも治してもらおうことができなかった女の人は、絶望的な状況だったでしょう。そこにイエス様の噂が聞こえてきたわけです。あっ、その方は旧約から預言されていた、そのキリストに間違いないということを悟った人なのです。大勢の群衆がイエス様について行きました。けれども、だからといってみながイエス様をキリストとして悟っていたわけではありません。けれどもたまに、来週もそういう人の名前が出ますが、目が見えないバルテマイのように、絶望的な状況の中でイエス様の噂を聞いて、イエス様を本当にキリストとして理解することができたわけです。なるほど、そういうことだったのか。自分の人生の今までのストーリーに今現在、自分の絶望的な状況が何を意味して、どういうわけなのかについて、イエス様の噂を聞いて悟ることができたわけです。

2) キリストでなければ絶対希望のない理由へと

つまり 12 年間、誰にも治してもらえなかった、その絶望が本当の絶望ではないのです。その人間的な絶望の状況を通して、キリストのメッセージを聞いて悟るわけです。キリストでなければ絶対に希望のない、完全絶望の自分の姿を目の当たりにすることになります。12 年間、誰にも治してもらえない病気の問題ではなくて、神を離れてたましいが死んでしまい、悪魔の支配の中で奴隷となり、滅びの運命を抱えて生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれた者だったんだね。今の私が感じていた絶望は絶望ではない。本当の絶望に案内するガイドなんだと。それが絶望なのです。絶望で終わると大変なのです。ただの絶望で終わると自殺の方に走るしかありません。自爆の方に走るしかありません。それは絶望が何かわかっていないことなのです。まだまだまだ絶望していません。本当の絶望は完全絶望が見えてくる窓口なのです。娘が死にかけることになり、絶望的な状況に追い込まれた会堂管理者が、それで絶望だったでしょう。娘のことをどれほど愛していたのでしょうか。娘が私より先に死ぬなんてもう人生終わりだと思えるくらいのことだったと思います。そこでイエス様の噂を聞いていたら、娘が死にかけていることが問題ではなくて、私たちが神を離れて完全に死んでしまったものであり、いのちのない者であり、悪魔の奴隷であり、地獄の子なんだということに気づくことになったのです。そのために娘が死にかけ絶望の状況が許されるわけです。残念なのは、教会に通っていながらも、その絶望的な状況を通してイエス様に「どうかしてください」とすがり、でもどうにかしないと教会から離れてしまいます。それは宗教なのです。どのような絶望的な経験、そういう気持ちがあるのでしょうか。そこ止まりではいけません。それはまだまだ絶望ではありません。本当の絶望を見るための窓口のようなものなのです。そのわけを説明していた、そのわけがこういうわけなのです。キリストでなければ絶対希望のない本当の理由へと案内してもらったことになりました。つまり、絶望を通して完全絶望の方に導かれることになります。

3) Only キリスト、絶対キリスト(48)

なので、Only キリスト、絶対キリストを告白するしかありません。これが絶望が許された本当の理由です。イエス様が最後におっしゃいました。「あなたの信仰があなたを救われた」。イエス様によって私の病気が治ることを信じますよという信仰ももちろんあったでしょうけれども、その信仰だったのでしょうか。あなたがあなたの絶望的な問題を通して、人間の本当の絶望に気づき、神との関係に気づき、イエス様を唯一の道キリストとして信じることができた、その信仰があなたを救われたのだよとおっしゃったわけです。だから絶望からスタートなのです。もう一度言います。スタートなのです。絶望は絶望ではありません。まだまだそれは序の口のようなものなのです。私たちは人生を全部諦めて、自爆して自殺したいと思うほど大変な絶望的な状況でしょうけれども序の口なのです。それどころではありません。永遠の地獄の運命を抱えているものなのです。長血の病気どころではありません。精神の病どころではありません。麻薬の問題どころではありません。地獄の子なのです。

4) キリストに集中-すべてを後にして(44)

Only 絶対キリストになるので、キリストにしばって集中するようになることは当たり前でしょう。すべてを全部下ろして後にして、キリストに集中するわけです。彼女はイエス様の着物にさわるだけでも...それが集中なのです。着物にさわるだけで。なぜ集中できないのでしょうか。まだまだ他にいろいろな可能性があるかのような感覚を持っているからです。なぜそういう感覚なのでしょう。絶望していないからです。いくら頑張っても。旧約聖書、イスラエルの歴史が私たちに教えている教訓は一つです。神を離れてしまった人間、悪魔のしわざにとらわれている人間は、神に選ばれたイスラエルでもだめなんだと。奇跡を見てもだめ。律法もみことばが与えられてもだめ。どこに可能性があるのでしょうか。何に頼ろうとしているのでしょうか。誰の何のせいにしていようとしていっちゃうのでしょうか。全部が勘違いなのです。絶望がわかっていないので。誰が悪いのでしょうか。誰が正しいのでしょうか。全部意味がありません。皆さんぜひ小さいレムナントの場合はレムナントなりに、家庭の状況や自分の性格や人間関係、さまざまなことでつまづいて暗くなって絶望的な思いになり、どうでもいいや、ケセラセラという気持ちになっているかもしれません。それは序の口なのです。騙されないように。そんなに人生すべてわかったかのような顔をしないように。親がどうのこうの、うちの家庭はああこうだ。私は何でこんなに病気が多いのか。それで自分ひとりが哲学者みたいに深いため息をしながら、社会は、周りの人は私のことを理解できない。理解してもらえない。私は孤独なんだとか何とか。いいですよ。それは序の口なのです。わかったふりをしないように。何がわかっているのでしょうか。30年前のことがわかっていない、これから30年後のことも知らないでしょう。アメリカのニューヨークに何があるのか知っていますか。何を知っているのでしょうか。何がわかっているのでしょうか。何の知識があってそれを根拠に神のことばに対してあざ笑ったりしているのでしょうか。絶望がわかっていないからです。

なので今日のメッセージを通して、皆さんにある小さい絶望を完全絶望に導くガイドブックにしましょう。そこに留まっていはいけません。完全絶望の方に案内されて、そこで本当に絶望してください。今まで不満、暗い思い、嫉妬、言い訳、ああこうだ...あれはなんと愚かな無駄なことだったのか、それに気づいてその全部ちりあくと宣言してください。それでキリストが見えるよう完全絶望になるように。キリストしか見えないように。今までのあの野郎が、この親が...それが全部見えなくて、キリストだけが見えるように。皆さんが親に捨てられたという絶望的な状況は、私が実は神様を離れてしまったその絶望に気づいてもらうための道具なのです。人間関係に絶望しましたか。それは神様との関係が絶望的だという宣言なのです。それを見せてあげるための神様の配慮なのです。病と死の危機などの絶望を経験したのでしょうか。それは私たちのたましいが死んでしまったという完全絶望を見てもらうためのきっかけなのです。死刑を宣告されたのでしょうか。癌によって、あるいは犯罪によって死刑を宣告された場合には、命が死ぬことが問題ではなくて、神に御怒りを受けるべき子らとして、つまり神様から死刑を宣告された者だという完全絶望に案内されるきっかけなのです。引きこもりの経験があるのでしょうか。それは人を避けて引きこもったでしょうけれども、実は引きこもりはアダムから始まったのです。神様を避けて隠れて引きこもったのです。そのアダムの血が私に流れているのです。神を避ける引きこもり、その完全絶望に気づいてもらうために許された小さな絶望なのです。そのきっかけとして許された絶望を無駄にして、不満材料、自殺の材料、引きこもりの材料にしてしまったのではないのでしょうか。なので、そのすべてを完全絶望へ案内してもらうガイドブックにして、皆さん、心から告白しましょう。主は生きる神の御子キリスト

ですよ。イエス様は私の救い主、すべての問題を解決なさったキリストですと心から告白して、今まであったさまよいの人生を終わらせて、救いの揺れない確信を持って、その救いの祝福を自分のものとして存分に味わう、迷わずに味わう、疑うことなく味わう、そういう信者になりましょう。

もう一度言います。完全絶望に案内してもらって、人のせいや人に頼ることや自分の感情、考え、気持ち等々、すべてあてにしないでキリストだけが見えるように。そこから勝利の人生がスタートします。皆さんに絶望的な曇りなど一切残る余地がありません。小さな絶望は完全絶望に食われて飲み込まれて、その完全絶望はキリストに全部飲み込まれてキリストだけが残る、そういう素敵な勝利の信者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちは自分勝手に絶望を決めつけて、そこで溺れてしまうことがあります、それこそが正しい人生、勝利の人生のための神様の最高の配慮であることを感謝して、絶望を通して完全絶望に目が開かれてキリストだけが残る Only キリスト、絶対キリストの信仰告白の信者になり、そこからスタートすることができるように。それで今まで私たちの思い、考え、心、気持ち等々、操っていた目に見えない悪霊が全部逃げ去るように、信仰告白の上にしっかり立たせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。